

特集「現代医学・生物学の先駆者たち」によせて

「令和」新時代の幕開けにあたり、戦後から平成に至るまで現代医学・生物学を築いてこられた先駆者の業績を振り返り、戦後の日本が現代医学・生命科学の発展にどのような貢献をしたかが概観できる一冊を作ろうと考え、本特集を企画した。第二次世界大戦終結後から今日までの74年間、世界はさまざまな領域で大きな変革を遂げてきたが、国家・民族間の対立は現在でも変わることなく続いている。それぞれの主張が衝突し合って益々混迷を深めるなかで、真の豊かさとは何かを問いかけ、科学や文化を通して世界に新しい価値を発信し続けることがわれわれ科学者の使命である。そのためにも、戦後から現在に至るわが国において、激動の時代を駆け抜けた先駆者が何を思い、何を成し遂げてきたかを今一度学び直すことには大きな意義があると思える。

特集企画にあたり、無理を承知でお願いした多くの先生方からのご寄稿はいずれも力作である。そこには、お一人お一人の研究人生のドラマや執筆者ご自身の想いが凝縮されており、感動を覚える。そして、われわれが幼少期からすごした自分史に重ね合わせるとき、同時代に活躍された先駆者の偉大さによって改めて襟を正される思いである。

1つだけ残念なことは、紙面の制限により、数多くの候補者から60余名に限定せざるを得なかったことである。そのため、ちょうど100年前にあたる1920年に降に生まれ、ご逝去されたか、すでに現役を引退されて久しい先生に限定することとした。また、臨床医学では特に選定が難しく、「疾患に名を残した医学者」に限定することとした。本来掲載すべきと思われる先生方の項目が見つからないとしたら、それは編集委員らの浅学とともに、このような事情のためとお許しいただきたい。こうした瑕疵にかかわらず、本特集がわが国の現代生命科学史の道標となり、新しい時代を切り開く読者の糧となることができれば、編集委員一同にとって望外の喜びである。

『生体の科学』編集委員一同